

地域や学校により愛着を く地域・学校・人をたどる新聞づくり

第54回全国小・中学校・PTA新聞コンクールの、小学校・学校新聞の部で理想教育財団賞を受賞した柏市立柏第五小学校。学校新聞「ナイススクープ」の制作内容、その効果などについて、藪崎仁美先生にまもていただきました。



●千葉県柏市立柏第五小学校教諭
藪崎仁美

●皆に読まれる学校新聞

「ナイススクープ」

本校の学校新聞である「ナイススクープ」が完成すると、新聞委員会の児童は急いで各教室に配達に向かいます。配られた「ナイススクープ」はすぐさま子どもたちの目にふれ、教室内には、しばしの沈黙が続きます。おのおのが興味を持つ記事に目を向け、熱心に読んでいます。中には、自分もしくは友達が載っている、嬉しそうに声をあげる子どももいます。それを見る新聞委員会の児童にも自然に笑顔が生まれます。また、子どもたちが持ち帰る「ナイススクープ」を毎回楽しみにしている保護者も多くいます。このような「みんなが読んでくれている」という意識が、新聞委員会の児童に発信する喜びを感じさせ、新聞づくりの原動力となっているようです。

●創立50周年の節目の年

記事で歴史を振り返る

特に、今年度は本校が創立50周年を迎えることもあり、50年間の学校の歴史を振り返る記事を掲載しています。その一つ、「GOGO!五小の話」では、昔にさかのぼって、校庭や校舎の様子や学校行事の様子、昔の子どもたちの生活の様子を伝えています。現在とは違った学校の様子を子どもたちは新鮮な目で見ているよう

●人気シリーズは、内容が多彩

また、「我が先輩に聞く!」のシリーズは、本校の卒業生から当時の学校生活について話を聞くというものです。実際に先輩のもとに出向き取材を行うと、緊張する小さな先輩を、先輩は温かく出迎えてくれます。時を隔てて同じ校舎で学んだ先輩と後輩との交流は、学校への愛着を深める機会になっているようです。これらのシリーズは、今の学校生活が50年間の学校の歴史の上にあること、たくさん先輩が学校を築き上げて今に至ることを実感させ、50周年を祝う子どもたちの意識を高めることにも役かっています。

●紙面づくりは手間をかけて丁寧に

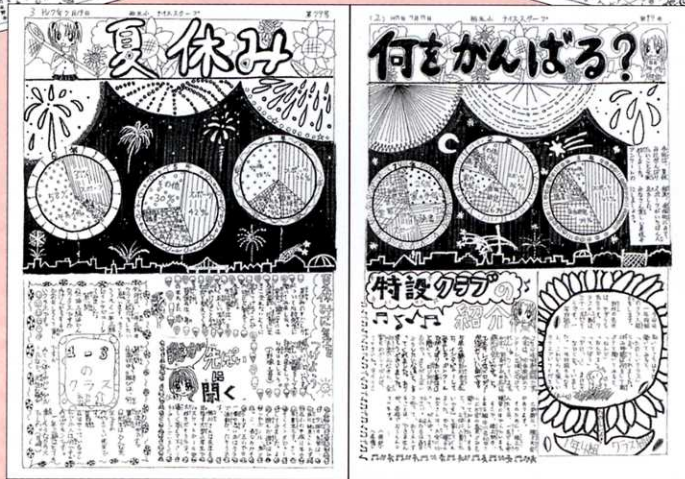
紙面づくりには、7段階の過程があります。まず、6年生を中心に何面にどんな記事を書けるかを話し合い、記事の割り振りを行います。次に、取材、原稿処理、レイアウト、印刷、綴じ込み、各クラスへの配達、と続きます。子どもたちは、次々とせまる仕事をしっかりとこなします。

・「わたしたちの手賀沼」
・「わたしたちの手賀沼」
・「五小探検隊」

・クラス紹介
・全校アンケート



特に、取材した記事を有効に生かすことにもなるレイアウトには力が入ります。
たとえば、6月号(第78号)では「雨の日に教室で何をして過ごす?」



第79号の2・3面

というアンケートがありました。子どもたちはアンケートの結果を集計し円グラフにしました。そこで、レイアウトについて話し合っている

から、円グラフを傘に見立てよう」「雨の滴を見出しの文字に反映させよう」などの意見が出るようになってきました。また7月号(第79号)の「夏休み何をがんばる?」というアンケートでは、円グラフを暗い夜空に開く花火に見立ててレイアウトしました。アンケートの内容を効果的に伝えるために、また、より楽しんでもらうために、毎回知恵をしながら紙面づくりを続けています。

また、紙面は全て手書きで書かれています。誤字脱字のチェックをしたり、文字を丁寧に書き直したり、低学年のために読み仮名をふったりと手間はかかりますが、手書きならではの温かみを大切にしたいと考えています。カットや見出しの文字も全て子どもたちが手書きしています。最初はおぼつかない様子でしたが、見られることへの意識は高まっているようです。今後の成長が楽しみです。

●心を見つめ生活に役立つ記事を
新聞委員会の今後の課題としては、子どもたちが自分たちの「心」を見つめ、自分たちのくらしに役立てることができるような記事を取材し、掲載することです。

昨年は、子どもたちの意見から実現した新潟中越地震の募金活動の取り組みや、お年寄りにクリスマスカードを送る児童会活動について紹介しました。子どもたちが発した声がいだいに大きくなって具体的な活動にまで結びついた様子を伝えることで、子どもたちに考えたことや感じたことを言葉にする勇気のすばらしさを感じてもらおう機会になったと考えています。

以上のような課題をふまえて、「ナイススクープ」が子どもたちの学校生活を少しでも豊かなものにしていけるよう、新聞委員会、担当教員ともども努力していきたいと思えます。



綴じ込み作業を手際よく行う子どもたち